

No. 50	昭和59年6月25日 発行 編集：後藤光男 〒591 堺市百舌鳥西之町1丁98-2 陵南住宅1号棟116号 電話：(0722)57局7009番
ねじればね	発行：日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文方 電話：(078)811局2706番 郵便振替口座 大阪9-39672番
June, 1984	

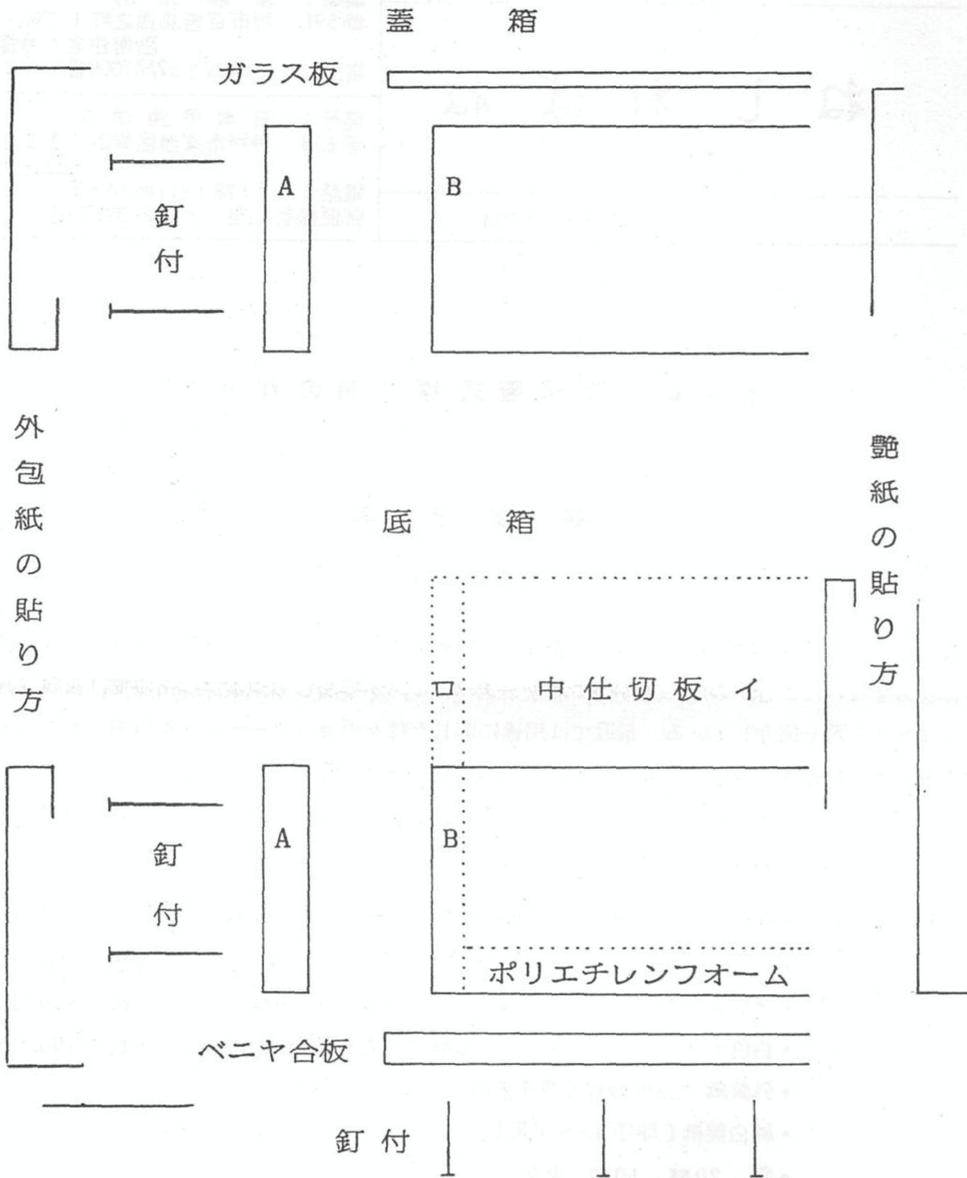
## インロー硝子蓋式標本箱の作り方

後藤光男

筆者は本誌(通巻27号, 1969)に厚板ボール紙を貼り合せて、インロー型とガラス蓋式の標本箱の作り方を書いたことがある。当時はまだカッターナイフが普及していなかったので、裁断用具としてカミソリの刃を紹介している。最近では用途に応じた種々のカッターナイフが販売されていて重宝であり、また日曜大工コーナーも材料が豊富で、用具に合わせて作るのなら割簡単なようである。コーナーで売られていた板材にあまり手を加えずに、志賀製のインロー硝子蓋式標本箱(特大形:40×30×6cm)に相当する標本箱を作ってみたので、紹介したい。

- 「材料・用具」
- 檜材 厚さ6mm×巾30mm×長さ910mm 4本 1枚 100円
  - ベニヤ板合板 厚さ4mm×巾300mm×長さ910mm 1枚 198円
  - 透明並板ガラス 厚さ2mm×巾292mm×長さ380mm 1枚 420円
  - 白色ポリエチレンフォーム 6mm厚(志賀製50×40cm) 1枚 400円
  - 外装紙 200Kg程度色美術紙
  - 純白艶紙(厚手4/6半裁判)
  - 釘 20mm, 10mm 少々
  - 品名差し 25mm×50mm×0.6mm厚アルミ 4穴
  - 他に合成糊、家庭用和糊、紙やすり、カッターナイフ、定規、軽子(43:6, 1981参照)、錐等。

インロー硝子蓋式標本箱 コーナー実寸図



- 「仕様」 インロー硝子蓋式標本箱、側面檜材、底部ベニヤ合板。  
 外寸法 長さ 38.0 cm × 巾 29.2 cm × 高さ 6.6 cm 外側アツキ色美術紙貼り。  
 有効面 長さ 35.8 cm × 巾 26.8 cm × 高さ 6 cm 内側純白艶紙貼り、底部 6 mm  
 白色ポリエチレンフォーム敷。

「作り方」

1. 板材を寸法取りする。必ず定規の一点を基点に(0なら0, 10なら10)、軽子で檜材4本のうち2本の両端から38cm4本(A用)、残りの2本も両端から28cm4本(B用)を両面に寸法取りする。寸法取りした点と点は金尺(軽子の項参照)をあて、カッターナイフの刃先で切断する線を記しておく。
2. 切断線に金尺をあて線にそって片方から直角に刃先を入れてゆき、芯の中央部に達したなら反対側も同じ作業で切断する。各4枚ともその長さが同一であれば修正の必要はないが、わずかでもずれている場合には紙ヤスリで、切断面を補正する。各4枚ともその長さが同一でなければ、仕上りは不具合となるので、この作業がもっとも大切である。
3. 板材の細部を再点検して長短各4枚のうち近似の各2枚を蓋部と底部に分け上・下の別を印しておく。
4. 組立をする。長い方の両端に先尖の錐で穴をあける。ついで接着面に合成糊を塗ってA板をB板(図参照)に釘付けする。これで上・下の木枠ができる。
5. 底部のベニヤ合板と上面のガラス板は、まったく同一寸法でなければならぬ。1項の寸法に板の厚みを加えると29.2×38.0cmとなる。
6. ガラス板は硝子店に木枠をもって行って、木枠に合わせて切断してもらうのが一番良い方法であるが、木枠の外寸法に合せた紙を持参してもよい。外寸法を測って「長さ〇〇、巾××」と口頭で頼むのは、一番危険である。なぜなら、ガラス店の物差と我々が使用した物差とは、多分に誤差があるからである。
7. ガラス板の寸法に合わせて底部になるベニヤ板を、カッターナイフで切断する。また中仕切板として、高さ55mmで長さ36.8mmのもの2枚と、長さ268mmのもの2枚を切断しておく。
8. 底部にベニヤ合板を釘付けする。
9. 蓋箱・底箱共各部に紙ヤスリをかけて角等を仕上げしておく。
10. 用意した外側用の紙を貼るが、前もって紙を湿めらせて紙の伸び具合を試しておく方が貼りやすい。蓋箱・底箱の紙の貼り方は図に示しておいたが、四方を1枚で貼ってもよく、二方1枚が各面1枚としてもよい。後者の場合には紙の継ぎ目の重なりを計算に入れておく必要がある。私が使用した紙はまったく伸びないので、寸法に合わせて軽子で折り目をつけたので、貼りやすかった。糊は家庭用和糊で、やや軟らか目に溶いて使用する。蓋箱は紙の上部をガラス面に貼るので、糊の汚れは貼り終えた時に拭きとっておいた方がよい。

11. 中仕切板を底箱に組んでみる。艶紙を貼るので、この厚みも考慮してややゆるい目とし、蓋箱をかぶせて具合を確かめる。
12. 中仕切板の4枚の外側となる面に艶紙を貼る。艶紙はかなり延びるので、充分延びた時点で貼らないと皺の原因となる。
13. 外側の紙が乾くれば蓋箱の裏に艶紙を貼りつける。上部のガラス面は外側の紙面より内側でないと、上から見てその端が食出していると大変見苦しいものである。
14. 中仕切板を釘で底箱に固定し、その内側の面からベニヤ合板にかけて艶紙を貼る。蓋箱・底箱の隅コーナーを細長い艶紙で被っておくと、見栄えがする。
15. 内寸法に合せたポリエチレンフォームを合成糊で底部に貼りつける。
16. 最後に品名差し金具を底箱の外側のこのみの位置に釘で固定する。
17. 私は下部となる方に防虫薬を4ヶ入れていて、この薬品容器は本誌で紹介(39:2-3, 1978)している。
18. 虫体にカビを生じるような材料は使っていないので、安全であると思っているが、私は1ヶ月程薬品を入れたままで、使用しないことにしている。

## 仮製本仁己止与世天(4)

後藤光男

(遠)

前号の(利)で「無線とじ」の方法を書いたが、最近「昆虫」と「蛾類通信」を仮製本したので、その方法を述べて見たい。「昆虫」の方は背面をラバー様の接着剤でとめてあるので、巻4冊の表紙と必要のない広告頁を取りはずし、各冊の背部の約5耗巾に強力接着剤を塗り、4冊を合冊する。上に重しを置いて一晚放置し、完全に乾かしてから、表紙を被せて三方を裁断し、背文字は取りはずした表紙の「昆虫」をそのまま代用した。

「蛾類通信」の方は12頁建で1・2・11・12; 3・4・9・10; 5・6・7・8頁の組合せであるので、8頁と10頁の折目に1耗巾で糊を塗って各頁を糊付けする。ついで総目次を頭に各号を前号で述べた方法である、背面を完全に揃えて目玉クリップで固定をする。背面に澱粉糊を薄く塗って一晚放置し、乾燥ののち表紙を取りつけて三方を裁断、背文字を貼って仕上げた。「昆虫」の方は、すでに「無線とじ」になっているから、単に合本したという感じである。しかし「蛾類通信」の方は頁間を極めて狭く糊付しているので、見開きと複写には左程見劣りのしない出来上りである。頁の背面にのみ糊を塗った方が更によい仕上りとなるから、送付されてきた都度にこの準備をしておいた方が、あとで糊外れ等の欠陥が生じないように思っている。私はこの方法を「ムセントジダマン」といっている。

住 所 変 更



新 入 会 員



復 活



退 会



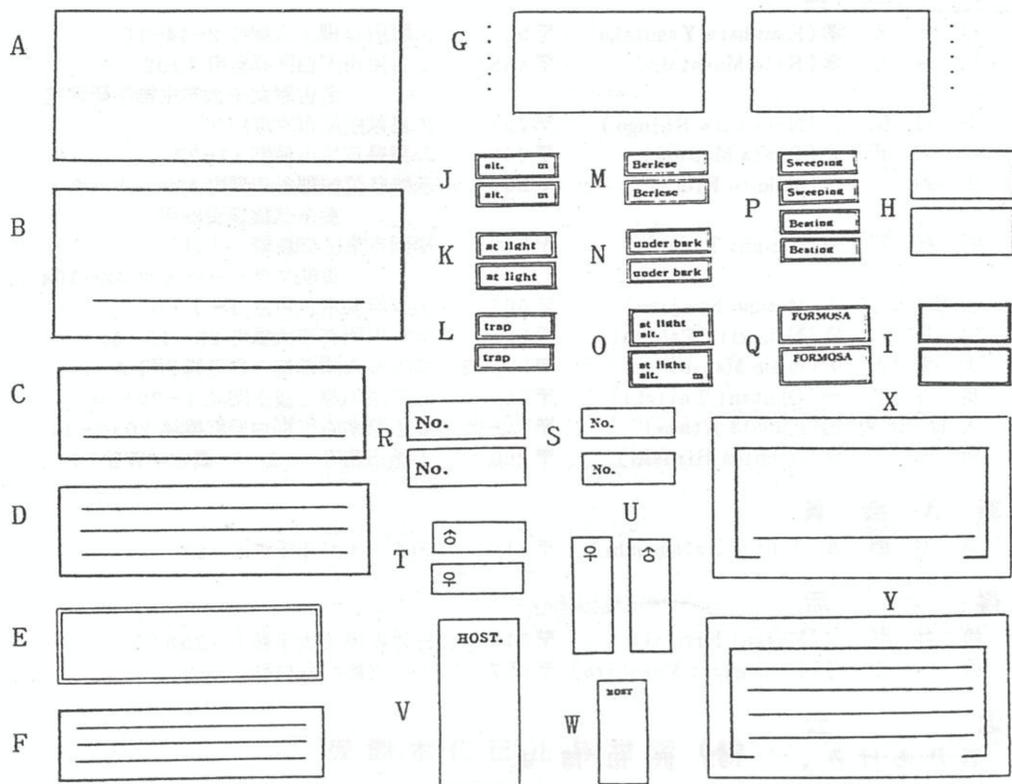
昭和 58 年度 収支決算書 (昭和58年1月1日より12月31日まで)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	938,200 円	印 刷 費	1,147,500 円
バックナンバー代	182,300	通 信 費	187,050
別 刷 代	69,150	消 耗 品 費	5,000
雑 収	28,202	大 会 費	17,600
特別会計から戻入金	200,000	幹 事 会 費	7,250
仮 受 金	368,334	雑 費	10,000
次 期 繰 越 不 足 金	166,685	仮 受 金 引 当 金	368,334
		前 期 繰 越 不 足 金	210,137
計	1,952,871	計	1,952,871

特別会計収支計算書 (会報発行基金)

昭和58年 1. 1	前 期 繰 越 金		1,163,144 円
1. 20	60万円貸付信託収益金 (57. 7. 20~58. 1. 19)		14,664
3. 26	金 銭 信 託 収 益 金 (57. 9. 26~58. 3. 25)		5,204
5. 20	40万円貸付信託収益金 (57.11. 20~58. 5. 19)		10,426
7. 20	40万円貸付信託収益金 (58. 1. 20~58. 7. 19)		10,036
9. 26	金 銭 信 託 収 益 金 (58. 3. 26~58. 9. 25)		5,727
11. 20	40万円貸付信託収益金 (58. 5. 20~58.11. 19)		9,776
	計		1,218,977
1. 20	一般会計へ繰入れ		200,000
12. 31	差 引 次 期 繰 越 金		1,018,977

—— 標本用ラベル・専用台紙 ——



A 扇形用(タイプ印可)	5片	1 5円	Q 台湾産標本表示用	50片	1 0円
B ク (ク 一本線入)	5片	1 5円	R 番号用 大形	32片	1 5円
C 扇用(科・族共通)	8片	1 5円	S ク 小形	36片	1 5円
D 袖用	8片	1 5円	T ♂ ♀ 横貼用	各 18片	1 0円
E 扇用(科・族共通)	10片	1 0円	U ♂ ♀ 縦貼用	各 21片	1 0円
F 和用	20片	2 0円	V HOST用 大形	10片	5 円
G 任意表示用(左右目盛入)	14片	1 5円	W HOST用 小形	36片	1 5円
H ク (枠一本線)	77片	2 0円	X 品名差用(白地)	3片	1 0円
I ク (枠二本線)	16片	1 0円	Y ク (線入)	3片	1 0円
J 採集高度表示用	32片	1 5円	Z 扇・種組合せ C 2片 D 5片	7片	2 0円
K 灯火採集表示用	120片	3 0円	甲虫専用台紙		
L トラップ採集表示用	60片	2 0円	20・15mm(両面線入) 4mm印で27片どり		2 0円
M ベルレーゼ採集表示用	17片	5 円	20・15mm(片面線入) 4mm印で25片どり		1 5円
N 樹皮下採集表示用	17片	5 円	13mm(片面線入) 4mm印で25片どり		1 5円
O 灯火採集・高度併示用	24片	1 0円	● 片数は一枚についての印刷枚数を、価格は一枚に対するもので、送料は含んでおりません。		
P すくい網、叩網採集表示用	S 6片、B 10片	1 0円			